

第89回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

經濟産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和6年4月16日

作成課	国際標準課
性質/作成日付	機密性1、令和6年4月16日
保存期間	1年
備考	未定稿

今回のTMBに関して

皆様には、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。

- 第89回TMB会合は、3/7~3/8にカナダのケベックで対面開催されました。
- 対面の会議（ハイブリッドも含め）が増え、コロナ状況下以前のような新旧の人的ネットワークの確立にもつながっているようです。
- SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンス（欄外URL参照）を活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発に対応いただけるようお願い致します。
- なお、時差の問題に関してはなくなることはありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡ください。

本資料は決議を要約していますので、正式なものは和訳版のついた英語版でご確認ください。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

● 任務

● ISO規格作成に関する管理事務的事項

- ✓ TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC
専門業務指針の改訂等

● ISO規格作成に関する戦略的事項

- ✓ 規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審
議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

● メンバー（出席者）

● TMB議長： Mr Javier GARCIA（西）

● TMBメンバー(15名)：

Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英),
Ms. Petra Scharf (独), **Ms. Atsuko Saruhashi (日)**, Mr. Franck Lebeugle (仏),
Ms. Yubing Li (中), Mr. Young Jun Moon (韓), Mr. Chandan Bahl (印),
Mr. Bruce Farquhar (加), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Ms. Karen Batt (豪),
Mr. Lukorito Zacharia (ケニア), Ms. Skou Maria (デンマーク),
Mr. Marcel Knecht (スイス), Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー)

● ISO中央事務局：

Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか

● オブザーバー：

Mr. Vimal Mahendru (IEC/SMB議長), Mr. Gilles Thonet (IEC/SMB事務局長)

報告・決議事項

【 決議 21/2024 】 新しい戦略ビジネスプランのフレームワーク

New strategic business planning framework

<決議要約>

- フレームワークの試行に向けて、新しいISO 戦略ビジネスプランテンプレートの使用を承認、
- ISO/IEC 専門業務用指針 (Directives) パート1 の関連箇所<箇条 1.6 (SBP 内容に対する分科委員会の関与) , 箇条 2.1.2 (SBP 要求事項) , 附属書 C (新業務項目提案の妥当性) 及び附属書 SC (ISO の SBP 要求事項) > の変更要請案を2024年10月までに作成するよう関係者に要請し、
- 最終的な SBPフレームワーク、テンプレート等を2025年3月に TMB に提出するよう要請。

<背景>

TMB 決議 14/2022にて戦略計画タスクフォース (SPTF) と委員会の戦略管理 (CSM) プロジェクトが設置。議論の成果として、新しい戦略ビジネスプランテンプレートの確認と試行に向けた対応について議論。

<審議内容> 議題4.1

- 使いやすい、作りやすいものと考えて、IECのSBPテンプレートを基礎にする提案があった。なるべくIECと共通化するコンセプトからも歓迎できる。
- IECがデジタル化を考えているのであれば、併せてデジタル化を考えて進めるのはどうか。
- まずは、パイロット的に希望したTCに新しいテンプレートでSBPを作成してもらい、作りやすさや使いやすさを確認するのはよいアイデア。希望したTCのみならず、TMBから依頼してもよいのではないか。

【 決議 22/2024 】 規格類最適化プロジェクト

Optimized Deliverables project

<決議要約>

- (本プロジェクトがIEC/ISO両組織で統一的に扱われることが必須であるという認識のもと) TMB は SMB に対し, IEC から共同コンビーナを任命する可能性を含め, 完全な合同プロジェクトとして協力して取り組むよう促進。
- プロジェクトへの共同関与の促進のため, TMB/SMB 合同会議 (2024年6月) の議題に, 本項目を追加するよう要請。
- TMB 会議中のコメントを受け入れて, TFが作業を継続して進めることに同意する。

<背景>

2022 年に規格類最適化 (OD) TF は活動を開始。このプロジェクトは、ISO規格類とその開発プロセス (IS、TS、PAS、TR、および IWA) が、長期にわたって、新興の、緊急の市場ニーズに効果的に対処するために最適化することが目的。

TFは、ニーズ調査を行い、そこから最適な対応を検討し、推奨事項を提案。それらについてTMBとして議論。

<審議内容> 議題 4.2 <本議題は、事前会合において議論された>

- 規格類がIECと異なるのは問題であり、共に議論すべき。ステップバイステップのアプローチが必要。
- 単なる議論ではなく、調査に基づくデータと実態 (data and fact) に基づき議論し提案。
- 例えば、PASの発行数や、IWAの活用、開発した規格が適切なタイミングで市場に提供できているか。

【決議 23/2024】 社会的責任に関連するリスク低減に関する TMBタスクフォース

TMB Task Force on the mitigation of risks related to social responsibility

＜決議要約＞

- 今回のタスクフォース(TF)は、社会的責任(ISO 26000)に関する TMB TFによって、2021年に特定されたリスクを踏まえ、リスク軽減方法を見つけることが求められている。
- TMB TFに対し、2024年6月のTMB会議に報告書を提出するよう求める。

＜背景＞

2023年9月TMB会合で、AFNORはSRのリスク軽減に関する項目とSAG ESGの活動及び2021年6月のTMB会合に提出された社会的責任（SR）に関するタスクフォースの最終報告書に同様のリスクを特定したと説明し、TMBに対してこれらのリスクを軽減する方法を検討するよう促した。

特定されたリスクには類似性があることから、社会的責任リスク軽減のためのTMBタスクフォースの設置を提案した。

＜審議内容＞ 議題 4.3

- 活動は6月までに終わらせる予定。
- 以前から状況が変わっていることを考えて開発してほしい。
- 前回のレポートと現状を踏まえて、TFは議論し、6月のTMBには報告する。

【 決議 24/2024 】 TMB ロンドン宣言行動計画 (LDAP)

TMB London Declaration Action Plan (LDAP)

<決議要約>

- TMB LDAP タスクフォースのアップデートと貴重な取り組みに感謝し、
- 改訂された行動計画を提示されたとおり承認する。

<背景>

LDAPの実施から1年以上経ったため、タスクフォース (TF) の経験と成果をまとめ、TMBに現在の状況と最新のLDAP案を示すことが目的。またLDAPは以前の合意の通り、数年にわたって進化し続ける生きた文書であることに注意。2023年の主な実績は以下のとおり。

- ・ISO気候アドバイザーを採用し、優先規格を開発している委員会のリーダーに、気候への配慮と気候科学を統合する方法の助言と勧告を提供。
- ・すべてのISOマネジメントシステム規格には、気候への配慮に対処するための新しい要件を含めることを決議 (MSSのHSの修正と附属書SLの変更)

<審議内容> 議題 5.1

- アドバイザーからの助言を共有してほしい。もしくは共有できるようなレポジトリを準備してはどうか。
- 現時点では長期的にこの活動を実施するのは持続可能ではないため、全TCに適応するのは躊躇。
- LDAPを3年もやっているので、COP29への提出する報告書を準備したらどうか。

【決議 25/2024】 ジェンダー対応規格に関する共同戦略諮問グループ (JSAG) の報告書

Report of the Joint Strategic Advisory Group (JSAG) on gender responsive standards (GRS)

<決議要約>

- この重要なテーマの共同コナーナ及びJSAGのメンバーに感謝。その報告書を受け入れ、
- ISO/IEC JSAG GRSの業務を2026年2月まで延長するよう要請し、
- IEC/SMBは2025年2月会議、ISO/TMBは2025年3月会議で報告することを求める。

<背景>

JSAGのガイダンスとアセスメントフォームは2022年9月から利用可能。ジェンダーに関連した調査では、回答者の68%が、GRSガイダンス文書が委員会活動とジェンダーの関連性を判断するために有用であると回答。規格開発におけるジェンダーへの配慮は増加傾向にあるが、更なる対応は必要。

<審議内容> 議題 5.3.1

- どのように進めていくかについて、ISO/IECの両組織で検討すべき。
- 内容に関して、IEC/SMBは、強制的に実行することが普及につながるのではないという意見。普及に向けた研修の実施などを行うための移行期間などが必要。それに伴いグループの廃止を取りやめるべきではなく継続した活動が必要であると議論し、それらを決議した。
- 報告書に感謝し、更に広報・普及が重要であると認識。
- 事務局案とは異なり、TMBは合同決議とすることを決議。

【決議 26/2024】 ESG調整委員会, ESG戦略, ESG専門的一貫性, IWA「環境, 社会, ガバナンス (ESG) 原則を実施するためのフレームワーク」の開発

ESG Coordination Committee, ESG Strategy, ESG technical coherence, development of an IWA “Framework for Implementing Environment, Social and Governance (ESG) Principles”

＜決議要約＞

- 環境, 社会, ガバナンス (ESG) を実行するためのフレームワークの原則に関するIWAの提案を承認し, 幹事国をABNT (ブラジル)、BSI (英国)、SCC (カナダ) に割り当て、
- CSC/SP/TMB/CASCOによるESG戦略協議グループ(ESG Strategy Consultative Group)の設立を推奨。
- ESG 活動を最適に組織する方法について TMB に提案することを目的として, TMB TF ESG (TMB TF Technical Coherence for ESG)の設立も承認。
- ESG CCには、これらの新しいグループへアドバイスや支援を与えることを依頼。

＜背景＞

- ESGの戦略的アプローチに関する様々な視点を理解し、理事会の戦略的パートナーシップ・イニシアティブからのインプットを検討し、方向性を確立することを目的にESG CC(調整委員会)が設立。
- ESG CC戦略的アプローチの改訂提案が回付。TMBからのフィードバックは、ESG CCに共有され、提案を改善。

＜審議内容＞ 議題 5.4.1 <本議題は、事前会合において議論された＞

- ESG CCとStrategy TFの関係が分かりにくい。
- 新たな協議グループへは、誰から依頼されて、誰に対して報告・アドバイスを行うのか→ガバナンスグループ。
- ESGのWSをISO総会中にTMBリードで開催してもよいのではないかと。→CSで企画・検討をする。

【 決議 27/2024 】 マネジメントシステム規格(MSS) に関するJTTCG – MSS の将来

＜決議要約＞

JTTCG on Management Systems Standards – Future of MSS

- 多様な ISOのMSS の効果的な使用と統合を促進し、それによってその価値提案を強化し、最適化された MSSのエコシステムを維持することの重要性を強調し、
- ISO/CS に、さらなる開発の可能性のためにJTTCG が出した推奨事項に関して、TMBからのフィードバックを JTTCG に伝えるよう要請する。

＜背景＞

JTTCGは2022年にタスクフォースを結成し、全MSS、体制、その構造を検討し、以下のような問題に対処するための提言を行った。

- 広く使用されている分野別MSSを含むMSSの増殖
- Harmonized approach（調和的アプローチ）（ISO指針第1部、附属書SL）の誤った適用
- MSSとマネジメント規格の区別に対する理解の欠如
- タイプA MSSは、正当なユーザーニーズではなく、目指すべき規格であるという認識

＜審議内容＞ 議題 5.4.2 <事前開催されたワークショップで議論＞

- 決議の記載方法が審議された。
- 決議名を後ろ向きな増殖（proliferation）から、MSSの将来に変更すべき。→ 変更する。

【決議 28/2024】 ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器 の再開

Reactivation of ISO/TC 11 Boilers and Pressure Vessels

＜決議要約＞

- ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器 の暫定的再開を承認し、
- TC 11 の恒久的な再活性化の可能性に関する TMB の決定のために、1年以内にPメンバーによって承認された新業務項目と共に、その名称、適用範囲、業務計画を確認するよう求め、
- ISO 16528:2007 第1部 及び 第2部 は引き続き確認(Confirm)とし、現時点では改訂しない。

＜背景＞

国際幹事国からISO/TC 11の活動再開の提案があったものの、2023年6月の第87回TMB会議でその決定を延期し、活動再開の必要性を判断するため、全ISOメンバーに対して意見照会を実施。意見照会は、「TS/P314 - 再活性化ISO/TC 11ボイラーおよび圧力容器」として12週間の会員投票が実施され、提案は受け入れられた。

同時期に行われた定期見直しにおいては担当する2件とも確認(confirm)であった。

＜審議内容＞ 議題 6.2.1

- 定期見直しの結果と、MB投票の希望が異なっており、一概に決定ができない。
- MB投票では賛成していても、市場の混乱を引き起こす可能性は否定できないなどの意見も多く活動再開が必須かどうかとなり、暫定的な設置となった。
- 一方、スタンバイからの活動再開のルールが不明であることから、「スタンバイ」は専門業務用指針から削除することになった（IECではスタンバイが利用されていない。）

【決議 29/2024】都市物流提案をISO/TC 344 革新的物流に割り当て

Allocation of Urban Logistics proposal to ISO/TC 344 Innovative logistics (TS/P 315)

<決議要約>

- 提案の業務範囲である都市物流が「物流」に関連していると判断し、提案をISO/TC 344「革新的物流」に割り当て、新SCの設置を推奨。
- ISO/TC 344 に対し、業務をどのように進めるか検討した上で決定するよう要請し、次回のTC 344総会後にTMBに報告するよう求める。

<背景>

2023年1月に韓国から「都市物流（アーバン・ロジスティクス）」の新規TC設置提案があり、MB投票は承認、続く12月のTMB投票では決議延期となっていた。直近でもTC 344 イノベティブ物流が設置されているように、既存の物流に関する専門委員会との重複の確認が必要であった。

<審議内容> 議題 6.2.2

- 提案国から説明を受け質疑応答を行い、その後、TMBのみで議論した。
- 新業務として規格開発の必要性はMB投票からも判明しているが、既存TCとは異なる専門家の参加を必要としているのか、除外TCが多いことは重複が多いということではないか等、IT系はTC 204、非IT系はTC 344に振り分けてもいいか（→整合性がなくなる）など新TCの必要性を議論。
- ISOでも、IEC/SyCのようなアプローチも必要かもしれない。
- 昨年の「サプライチェーンとロジスティクスの分野における一貫性に関するTMBタスクフォース」の議論を踏まえて検討すべき。

【決議 30/2024】新活動分野業務の割り当て：消費者保護：消費者製品のプライバシー・バイ・デザイン（TS/P 316）

Allocation of work in the following new fields of activity: Consumer protection: Privacy by Design for Consumer Products (TS/P 316)

＜決議要約＞

- ISO/PC 317 消費者保護：消費者商品及びサービスのプライバシー・バイ・デザイン によって提出され会員団体投票によって承認された提案を承認し、
- この提案が ISO/IEC JTC 1 情報技術 内に割り当てられることに同意された場合、新たなSCの設置を推奨し、ISO 31700 第1部 及び 第2部 を新たなSCに割り当てる。

＜背景＞

新TC設置提案については、PC317で発行したISO 31700-1、TR31700-2のメンテナンス、31700-3の継続開発等が必要であるとして、PC317から提案されたもの。

ISO/IEC JTC 1 から、新TCの範囲は既存のJTC1のSC（特にSC27）との重複があるため、JTC1の活動として行うべきとのコメントが出された。

＜審議内容＞ 議題 6.3.1

- 当時、既存のJTC1では消費者の視点がないことが指摘され、PCが設置された。ここでJTC 1/SC 27へ戻すのは整合性に欠ける。
- 消費者の参加がないということだけであるならば、参加させればよく、新TCの必要性がない。
- SC27と重複していても、異なった視点の新SCとして必要性が高い。
- SMB、JTC 1の承認も必要であることに留意すべき。

【 決議 31/2024 】 DMT 及び JDMT の推奨事項に対する承認とアクション

<決議要約>

Approval and actions to DMT and JDMT Recommendations

- 提示された以下の推奨事項を承認し、提起された編集コメントを考慮するよう JDMT リーダー に承認を依頼。

【 決議 32/2024 】 小数記号

Decimal marker

<決議要約>

- 小数記号実現可能性検討グループからの報告書に留意し、
- グループの取り組みと提案に感謝し、実現可能性検討グループを解散し、
- IEC/SMBに同意を求める。

【決議 33/2024】 リスク及び関連用語の概念に関する ISO/IEC 合同タスクフォースからの推奨事項に従い、附属書 SL マネジメントシステム規格のための調和させる方法 の付録2 の改訂

Revised Appendix 2 of Annex SL Harmonized approach for management system standards following the recommendation from the ISO/IEC Joint Task Force on the Concept of Risk and Associated Terms

<決議要約>

- MSS に関する合同技術調整グループ(JTCG)に対し、リスクの概念と関連用語に関するISO/IEC 合同タスクフォース の最終報告書の推奨事項により、附属書 SL を見直し、
- 附属書 SL の改訂された付録2が、ISO/IEC 専門業務用指針第1部及び統合版 ISO 補足指針の新版と共に2024年5月1日に発行されることを確実にするよう要請する。

<背景>

リスクと関連概念の定義、使用、解釈にかなりのばらつきがあったため、リスクの概念と関連用語の共通化に向けたISO/IEC JTFが2021年に設立された（TMB決議81/2021）。

TMBは2023年6月の会合で、ISO/IEC JTFの最終報告書及び勧告 1， 勧告 2 を承認（TMB決議 49/2023） 。その勧告 2 を勧告 1 と共にJTCGが見直し、TMBに勧告したもの。

<審議内容> 議題 8.3

- 100人を超える専門家が参加しJTFで議論した結果、Riskには定義が複数あることは不変。それを認識することが必要。
- リスクの定義が複数あり専門業務用指針を修正することは承認。異なった定義を利用しても「deviation」としない上でも「difference」を使っている情報を追跡・モニターしたほうが良い。(Action)

【決議 34/2024】 バイオデジタルコンバージェンスに関する新しいシステム委員会の承認

Approval of a new common ISO/IEC Systems Committee on Bio-digital convergence

<決議要約>

- バイオデジタルコンバージェンスに関する ISO/IEC 合同システム委員会（Joint SyC）の設立を求める IEC/SMBの提案を踏まえ、JSyCのパイロットとしての設置を承認し、
- 関心のある ISO 会員組織に、SyCの業務への積極的参加を促進する。

<背景>

2023年6月第87回TMB会議において、SMBはIEC/ISOの合同SyCを検討するよう要請した。その後、2023年10月第178回SMB会議において、SMBはバイオデジタルコンバージェンスに関する新規SyC設立を承認。この決議ではTMBに対し、SMBはJSyCの可能性またはその他の共同組織を通じて、作業への協力を改めて要請した。

<審議内容> 議題 9.2

- IECからの合同の提案を歓迎するものの、SyCへの理解が足りない。前向きに捉えて、SyCを理解するまでISOとしてはパイロットとして対応を希望。
- 本SyCをパイロットとして、IECをガイド役として利用することは、ISOにこのような形態がないからといって、否定するのではなく前向きにとらえており、ISO/IECの活動として重要。

【決議 35/2024】 CEN との協力 – HASコンサルタント プロセス

Cooperation with CEN – HAS Consultant Process

<決議要約>

- HASプロセスに関して提示された報告と課題を踏まえ、TCに対し、HAS プロセスに関連する遅延又は否定的な評価が発生した場合でも、ウィーン協定を分離し、業務を続行できることの注意を促し、
- ISO/CS に対し、委員会に明確化な情報を提供するように要請し、
- このテーマについてさらに議論するため、6月の会議で議題項目を予定するように求める。

<背景>

- ・2019年9月（第76回）TMBで、ウィーン協定に関連した問題点（HASコンサルタントとその手続きの遅延）が提起され、議論が開始。HASコンサルタントからのコメントの提出が大変遅いことに対して、ISO/IEC/CEN/CENELEC/ECは、意見交換を行い、改善策の議論及びECへの改善を求めた。
- ・2022年にECは、それまでのHASコンサルタントとの契約を改め、対応させた（分野は特に機械）。その後、大幅に時間は削減。

<審議内容> 議題 9.3

- このシステムは失敗していると思う。HASコンサルタントの質が一定ではない。
- HASコンサルの返事がなければ、Disconnect/Decouple（ウィーン協定の分離）すればよい。
- 遅延の問題と、ENへのEC介入という2点を混同せず議論すべき。

ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- **TF**(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- **CC**(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。
TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- **SAG**(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、
専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。

どのグループもTMBに報告する。

報告・討議事項 (決議なし)

9.1 IECアップデート

- SMB第179回の会合について - Sustainabilityが大きなテーマ。IECのTCにとっての持続可能性の定義はなにか、NCとしても持続可能性に向けた役割を果たすべき、など。
- ISO/IECとして、AIの規格開発への利用に向けた合同の利用ガイドが必要であることが認識された。まずはIECのTCでどのようにAIを利用するか、というガイドを開発する予定。
- IEC自身もISO/IEC 42001(AIマネジメントシステム規格)を適応するか、確認すべき。
- DXとSMART規格がSMBでも議論になった。6月にTMB/SMBでの合同会議を開催する方向でISO中央事務局とも調整中。
- IEC/PC131、JTC 3（量子技術）が設置された。

<討議内容>

- IECは本当に重要なパートナーであり、ばらばらの決議ではなく、案件の議論をまとめていくことに興味あり。
- AIは、AIのガバナンスを議論するのがahG96？
→ ahG96は、SMBの視点で議論し、SMBへのアドバイスをを行い、6月に報告予定。
- NC/MBsレベルでは一緒になにができるか……。使えていないデータがたくさんある。
- LDAPのアップデートをSMBに提供するのでも歓迎。IEC事務局長と広報部長に対してアップデートを提供したところ、歓迎された。

11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回 第90回TMB会合@ジュネーブ（スイス）

2024年6月12日-13日

事前会合、TMB/SMB合同会合

6月10、11日

次々回 第91回TMB会合@カルタヘナ（コロンビア）

2024年9月10日

ISO総会、関連会合

9月9日～13日

TMBケベック会合中の関連会合

TMBケベック会合中の関連会合

TMB会合中だけでは議論しきれない議題については、事前会合やワークショップを行い意見交換を行い、ほかのTMB議題と同様に、会合中に決議ができるよう準備した。

開催国の議長等とのワークショップは、2023年3月の米国開催から定期的に行われている会合である。

- Optimized deliverables（規格類最適化）ワークショップ
- MSSの将来に関するワークショップ
- カナダ TC/SC議長・NMC議長とのワークショップ
 - － 気候変動に関連したカナダの議長、国際幹事との意見交換。
- TMB事前会合
 - － 議題4.7 全MSSの自動的な追補の進捗レポート
 - － 議題6.2.2 都市物流
 - － 議題5.4 ESG CC ...etc.

【事前会合】 Optimized deliverables（規格類最適化）ワークショップ

- 現状の規格類 (IS, TS, PAS, TR, IWA)を市場ニーズに応じてベストに利用できるように最適化することが目標。
- 総論として提案内容はよいものの、TMBだけで決めることは現在のIEC/ISOの Directivesを統合する方向にもっていく流れに反する。
- 6月のSMBに対して、本内容を説明し、提案を行い、合同で議論するように持ちかける。

検討内容：事務局案。全てが承認されたわけではない。

- 推奨1: 規格類の種類セット – TS と PAS を単一の規格類の種類に統合。
- 推奨2: 規格類の命名、説明、およびガイダンス – 特にTSのありかた
- 推奨3: 市場投入までの時間 – 合意形成に十分な時間を確保し、緊急対応のために時間短縮に向けた改善。
- 推奨4: 情報コンテンツ (TR) の開発 – 新しいプロセスの提案。
- 推奨5: 貢献メカニズム – 既存のウェビナーや本会議期間中の公開セッション、アンケートなどの利用のためのガイダンスを提供。
- 推奨6: ファストトラック – 通常の IS 開発プロセスにファストトラック プロセスを組み込む。
- 推奨7: 改訂 (revision) の全体的な開発時間を改善する – 新しいプロジェクトを設置して、改訂の開発時間の効率をあげる。
- 推奨8: メンテナンス アプローチの強化 – 発行された規格の内容のメンテナンス メカニズムを分析および改善。

【事前会合】 議題 5.4.2 MSSの将来に関するワークショップ

- TMBが依頼したMSSの将来像の検討に対して、JTCGからの報告と勧告案。
- MSSの増殖を問題視するあまり、JTCGに権限を与えてMSSを取り締まるようにも見受けられた。
- 決議の名称を変更し、JTCGとは議論をしながら実行できるように決議した。

【検討内容】

JTCGから提案された16の推奨事項を事務局が精査し、対応案を提供。TMBが議論し、決議。

1. Proposal/preparatory stage
2. Strengthen the JS and approval process
3. Provide member bodies with more information for approval ballot
4. Revise the “Integrated Use of MSS” Handbook and promote its use
5. Include integration guidance in all MSS handbooks
6. Develop a long-term plan to consolidate any identified overlapping or conflicting standards
7. Develop criteria for determining correct TC ownership of related topics/disciplines
8. Strengthen the systematic review stage for relevant deliverables to improve effectiveness
9. Clarify intent of management standards
10. Clarify the different types of deliverable and their relationship to one another
11. Strengthen governance of deviations and standardize deviation reports
12. Sentence of mandatory text in implementation guidance documents
13. Present the core text separately to additional text or make it available as a standalone document
14. New templates following the harmonized approach
15. Develop digital deliverables
16. Improve the guidance available on the ISO website and ISO TC websites

いろいろな考え方のもと、検討された案ではあるが

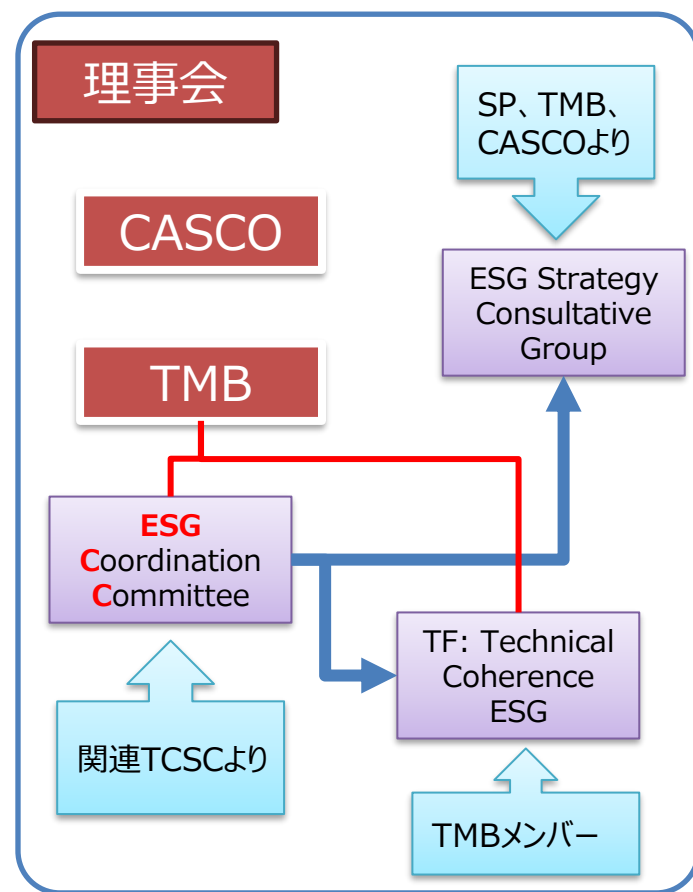
- ・ 厳しすぎ？
- ・ やりすぎ？
- ・ 長期的過ぎ？
- ・ どこまでやるべきか？

など、議論があり、一度に決定するのは困難との認識。もう少し議論しながらの対応が必要と結論。

【事前会合】 議題 5.4.1. ESG

- IWA提案
- TF (TMB TF Technical Coherence for ESG) の設置
- 協議グループ(CSC/SP-TMB-CASCO ESG Strategy Consultative Group)の設置

- IWAの開発には賛同するものの、無償提供には議論多し。
- ESGは、世界の各地で議論あり。TMBのみでの対応は困難であり、理事会との協力が必要。理事会戦略政策小委員会 (SP) とTMBが協力した意見交換のグループの設置が提案されたが、CASCOの関与の必要性が議論され、CSC/SP、TMB、CASCOによるESGの戦略を協議するグループとして提案することに。
- 更には、TMB内においてESGに関する (TC/SCに関連した) 技術的な一貫性を保つためにどうするか、という議論もあり、TFの必要性が議論され、設置することに。
- 既存のESG CCはTCSC間のコーディネーションであり、新グループと新TFへアドバイス (青線) を。
- 協議グループと新TFは、経過・結果をガバナンスグループへ報告。



TMB通信投票の決議

2023年第88回TMB会議以降～2024年第89回TMB会議まで

● TMB決議 81/2023 ～ TMB決議 92/2023

- 81/2023:機械エネルギー貯蔵技術（ISO/TC 346）に関する専門委員会の設置
- 82/2023:TC議長の任命（2023年8月）
- 83/2023:ISO/IEC ガイド 21 - 国際規格及びその他の国際規範文書の地域的及び国家採用，第1部及び第2部 の定期見直し後の確認
- 84/2023:ISO ガイド 73:2009 リスクマネジメント 用語 の廃止
- 85/2023:TC 議長の任命（2023年9月）
- 86/2023:流通チャネルとブランド向けの標準映像素材識別子（UMId）に関する IWA
- 87/2023:ISO/PC 343 – 名称及び業務範囲の更新，及び活動とプロジェクト計画の更新
- 88/2023:TC 議長の任命（2023年10月）
- 89/2023:合同専門委員会最終報告書に関するJTFの承認
- 90/2023:廃止投票への異議（2023 年第 3 四半期）
- 91/2023:量子技術に関する合同専門委員会 – 幹事国の割り当て
- 92/2023:ISO/IEC JTC 量子技術の設置のための2週間の確認投票
- 93/2023:MSSに関する合同専門調整グループ（JTTCG）議長の任命
- 94/2023:TC 議長の任命（2023年11月）

● TMB決議 1/2024 ~ TMB決議 20/2024

- 1/2024:ISO/TC 82 鉱山 の業務範囲の変更
- 2/2024:スポーツにおける倫理と誠実さ- ガイドライン に関する IWA
- 3/2024:廃止投票への異議 (2023 年第 2 四半期) - 補遺
- 4/2024:規格 ISO 20700 : 2017 マネジメントコンサルタントサービスの指針 のISO/TC 342 経営コンサルティング への割り当て
- 5/2024:重要鉱物調整委員会 (CMCC) のコンビーナの任命
- 6/2024:ISO/IEC JTC 1 情報技術 の戦略ビジネスプラン (SBPs) の承認
- 7/2024:ISO/TC 8 の下の海洋 GHG 削減 に関する新しい分科委員会 (SC 14) の設置
- 8/2024:ISO/TC 276 の下の分析方法に関する新しい分科委員会 (SC 1) の設置
- 9/2024:TC議長の任命 (2023年12月)
- 10/2024:ISO/TC 212 臨床検査及び体外診断検査システム の名称及び業務範囲の変更
- 11/2024:ISO/TC 108 機械の振動, 衝撃及び状態監視 の再割り当て
- 12/2024:IEC/ISO 合同専門委員会(JTC 3), 量子技術 議長の任命
- 13/2024:委員会ネットワーク - フォローアップ
- 14/2024:文化遺産保存に関する専門委員会の設置 (ISO/TC 349)
- 15/2024:TC議長の任命 (2024年1月)
- 16/2024:データ駆動型アグリフードシステム のリファレンス アーキテクチャーに関する IWA
- 17/2024:ISO 14816 の登録機関 (RA) の任命
- 18/2024:ISO/IEC ガイド 84 : 2020 標準で気候変動に対処するためのガイドライン の改訂
- 19/2024:ISO/ASTM 合同開発活動の終了
- 20/2024:ISO/TC 4 の下の 試験, 測定及び評価 に関する新しい分科委員会 (SC 13) の設置

参考 (ご紹介)

SPCG (Standardization Programme Coordination Group) について

- 2023年11月にSPCG対面会合をミラノで開催予定。
- 2023年7月にWSをオンラインで開催。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC (SG) 設置の回避や、3機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。(日本からは、当初よりTMB委員が参加。)

- ①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
- ②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
- ③SPCGの責任外の問題(著作権、有償無償問題など)は適宜関連部署へ
- ④SPCGは決定機関(Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG)に報告
- ⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付(著作権等の遵守は必須)
- ⑥3組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成(Landscape文書)

どのように広報中？



右のイメージに到達したら、下にスクロール！

SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:

- Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
- Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
- Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership [Download ↓](#)

SPCG terms of reference [Download ↓](#)

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields) [Download ↓](#)

SPCG Key performance indicators [Download ↓](#)

SPCG Effective Coordination Paper [Download ↓](#)

SPCG AI/ML landscape [Download ↓](#)

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2021

Field	ISO TCs ¹	IEC TCs ²	JTC 1/SCs ³	ITU-T SGs ⁴ , FGs	Dedicated and other related Coordination
	<ul style="list-style-type: none">• TMB	<ul style="list-style-type: none">• SMB	<ul style="list-style-type: none">• SMB & TMB	<ul style="list-style-type: none">• TSAG	<ul style="list-style-type: none">• IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG)• World Standards Cooperation (WSC)• Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	<ul style="list-style-type: none">• ISO/TC 204 Intelligent transport systems	<ul style="list-style-type: none">• IEC/TC 86• IEC/TC 100• IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	<ul style="list-style-type: none">• JTC 1/SC 6	<ul style="list-style-type: none">• ITU-T SG15• ITU-T SG9	<ul style="list-style-type: none">• ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	<ul style="list-style-type: none">• ISO/TC 37• ISO/TC 159• ISO/TC 173• ISO/TC 314		<ul style="list-style-type: none">• JTC 1/SC 35	<ul style="list-style-type: none">• ITU-T SG2• ITU-T SG9• ITU-T SG16• ITU-T SG20	<ul style="list-style-type: none">• Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (JCA-AHF)
Active Assisted Living	<ul style="list-style-type: none">• ISO/TC 314	<ul style="list-style-type: none">• IEC/SyC Active Assisted Living• IEC/TC 64• IEC/TC 61		<ul style="list-style-type: none">• ITU-T SG16	
Agriculture, smart farming	<ul style="list-style-type: none">• ISO/TMBG/SAG on Smart Farming• ISO/TC 23	<ul style="list-style-type: none">• IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence	<ul style="list-style-type: none">• JTC 1/SC 41• JTC 1/SC 42	<ul style="list-style-type: none">• ITU-T SG5• ITU-T SG13• ITU-T SG16• ITU-T SG20	

表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
 - ISO次世代賞
 - ISO優秀賞
 - 産業標準化事業表彰
- 2023年 JTC1/SC 42 AI（人工知能）が受賞。
- 2023年 Tanzaniaの若手職員が受賞。
- 参考 <https://www.iso.org/iso-awards.html>
- IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
- ISO次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。（4月末まで募集中）
- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- 産業標準化事業表彰：国際規格やJIS等の作成、普及・啓発等や標準化を活用した市場創出や社会課題解決等の功績を有する個人・組織を表彰（5月10日12時まで募集中） <https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R06hyosho.html>

【補足・御参考】令和6年度産業標準化事業表彰について

＜産業標準化事業表彰について＞

標準化推進活動等に優れた功績を有する人材・組織を、毎年10月の「産業標準化推進月間」にて表彰。

（表彰は、功績に応じて、内閣総理大臣表彰、経済産業大臣表彰及び産業技術環境局長表彰の3種類）

＜前年度からの変更点等＞

1. 表彰対象の拡大

- 今年度から、規格開発の専門家等に加えて、『標準化を活用した市場創出や社会課題の解決等に功績のあった個人及び組織』も表彰対象としています。

2. 過去の受賞者を推薦する場合の留意点

- 過去の受賞者を他の表彰に推薦いただけます。（例えば、過去に経済産業大臣表彰を受賞した方を内閣総理大臣表彰に推薦可）
その場合、前回受賞した功績以外が今回の評価対象となります。
- 過去の受賞時と異なるカテゴリーの功績に基づく推薦であれば、前回と同じ表彰にも推薦可能です。（例えば、過去に「規格等の作成」に係る功績によって経済産業大臣表彰を受賞した方を、今回、「企業の市場創出に資する標準化の推進」に係る功績に基づき（前回と同じ）経済産業大臣表彰に推薦することは、可能です。）

※ 詳細は、[募集概要](#)、[応募要領](#)、[FAQ](#)を御参照ください。

＜御参考：令和5年度広報実績＞

- [受賞者の御功績紹介、総理大臣表彰及び経済産業大臣表彰受賞者インタビュー](#)
- [内閣総理大臣表彰受賞者による御講演（産業標準化事業表彰特別シンポジウム）](#)

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

<事務局長からの連絡>

- ロシア主導で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

<ロシア主導が以下の場合>

- CM（委員会マネジャー）
 - ・ 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 - ・ ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。
- 議長
 1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
 3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
 1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
 2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
 3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

笑顔のメンバー ケベックでの集合写真



ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>